

カメラ ま ち の 出 来 事 あらかると

広報たかはし

広報たかはし

楽しさいっぱい、子どもが主役

(6月14日 栄町商店街)

子どもたちに楽しんでもらう「わくわく子どもフェスタ21」が開かれ、大勢の親子連れらでにぎわいました。

歩行者天国となった商店街では手づくり遊びや体験コーナー、フリーマーケットのほか、子育て支援団体や吉備国際大学生らが出店。特設ステージでは子どもたちがダンスや歌などを熱演しました。子どもたちにとって楽しいひと時となりました。市内13団体による実行委員会が主催し、今年で8回目。



会場いっぱいに童謡のハーモニー

(6月28日 総合文化会館)

「第23回童謡まつりイン高梁」(市童謡のまちづくり推進委員会主催)が行われ、子どもから大人まで21団体が童謡の美しいハーモニーや演奏を披露しました。高梁で生まれた新しい童謡「もんしろちょうのおたんじょう」の初披露、招待合唱団の学園都市混声コーラス(兵庫県神戸市)のステージもあり、エンディングではステージと客席が一つになって「ふるさと」を合唱しました。

細川護熙さんが来館

(6月14日 成羽町美術館)

5月24日から6月29日まで開催された「細川護熙～数寄の世界展」に作者の細川護熙さんが来館。第79代内閣総理大臣を務めた細川さんは、政界を引退してから神奈川県湯河原で陶芸活動を行っています。サイン会には大勢の人が集まり、細川さんはファンの質問に答えながら焼き物の魅力を語っていました。



ホタル観賞と神楽を堪能

(6月14日 ふるさとプラザ)

今年で7回目となった「漫画の郷大神楽&川合ホタル祭」(同実行委員会主催)。川上町は神楽太夫が多いことで知られていますが、この日は51人いる神楽保存会員のうち25人の神楽太夫が「猿田彦の舞」、「国譲りの能」などの優壮な舞を披露。ホタルが飛び交う領家川近くのふるさとプラザに詰め掛けた多くの神楽ファンを魅了しました。



近代化産業遺産の認定プレートを除幕

(6月8日 ベンガラ館)

幕末から昭和初期にかけて日本の産業発展に大きな役割を果たした遺産群として、昨年11月に経済産業省の「近代化産業遺産」に認定された、笹畝坑道(成羽町中野)、吉岡銅山遺跡(同坂本)、ベンガラ館(同吹屋)の3施設への認定書伝達と認定プレート除幕式が行われました。この3施設は、「地域とさまざまなかわりを持ちながら、わが国の銅生産を支えた瀬戸内の銅山の歩みを物語る近代化遺産群」として、犬島精錬所(岡山市)と別子銅山跡(愛媛県)と合わせて認定されています。

かれんな花一面に

(6月15日 松原町松岡)

春まきソバの花が満開となり、「春まきそばの花見会」(松原そばの会主催)が開かれました。約90畝の斜面はかわいらしい花で真っ白に染まり、市内外から訪れた家族連れらがカメラを手に散策していました。会場ではソバの手打ちを実演して振舞ったほか、地元で取れた新鮮野菜が格安で販売され、にぎわいました。



DV防止のための認識を深めて

(6月25日 文化交流館)

男女共同参画週間(6月23日～29日)に合わせ、「男女共同参画社会啓発講演会」が行われました。配偶者などが暴力を振るうドメスティック・バイオレンス(DV)は大きく社会問題化しており、参議院議員時代にDV防止法策定やストーカー行為規制法案立法などに関わった弁護士の大森礼子さんが「なぜDV防止法が制定されたか」と題して、法制定の意義を話しました。

末永い地域間交流を願って

(6月29日 備前市日生町大多府)

成羽町布寄地区と大多府島が、友好交流協定の調印式を行いました。昭和61年から山間部と島といった環境の異なる布寄小学校と大多府小学校が交流を続けていました。今年3月で大多府小学校が廃校となったため、地域間の交流に発展させることとしたものです。子どもたちが培ってきた「友情」の輪は、今後、地域の大きな輪に広がります。



100歳おめでとうございます (6月20日 白和荘<高倉町大瀬八長>)

100歳を迎えられた杉本於品さん(成羽町下日名出身)を担当職員が訪問し、記念品や花束を贈って長寿を祝いました。市内で100歳以上の人は7月10日現在で25人(男性5人、女性20人)。

今月の 表紙

初夏の涼 ～沢柳の滝～

川上町上大竹の県道沿いにある高さ25mの沢柳の滝は市指定名勝。伏流水が地表に出て流れ落ちる滝で全国でも珍しく、晴雨にかかわらずほとんど一定の水量で濁ることのない美しい滝です。初夏の緑に囲まれて、迫力いっぱい流れ落ちる滝は涼しさを誘います。